保護者の皆様

認定こども園綜合施設
函 館 若 葉 幼 稚 園

令和４年度学校評価報告について

日頃より、本園の教育・保育に対しましてご理解とご協力下さり、誠にありがとうございます。

これまで皆様に選ばれる園として園の案内や見学または説明会、卒園児による推薦など積極的に情報提供を行うとともに、遊び中心の教育・保育に取り組んできました。

今後はこれまでの遊び中心の教育・保育の取り組みと共に園としての教育・保育活動その他の運営について目標を設定し、その達成状況を整理、検討することで教育・保育の改善を目指します。

また、担任による自己評価、学校評価、関係者評価の実施、結果の公表（学校評価報告）により、保護者の皆様からご理解と参画を得て信頼され開かれた幼稚園づくりを進めていこうと存じます。

保育者による自己評価と保護者の皆様のアンケート結果を合わせてご覧いただき、遅くなりましたが令和４年度学校評価報告とさせていただきます。

自己評価結果と保護者によるアンケート結果

１、本園の教育目標

宗教的な雰囲気の中で「明るく元気な子」「心ゆたかな子」「自分からすすんで行う子」の育成

２、本年度、重点的に取り組む目標・計画

・のびのびと遊ぶ中で興味・関心を引き出し、子どもからの「やりたい」の声を大切に教育・保育を行い、安心して自分の好きなことに集中できる環境を整える。

３、自己評価結果

Ⅰ保育の計画性について

・子どもたちの「やりたい」を重視し、自発性を育てようと努め、子どもの興味関心を捉え計画し教育・保育に当たってきたが、日々振り返ると本当に適切だったのか、考えさせられる場面が多々あり、試行錯誤の１年だった。
・保育者の意図と子どもの主体性とのバランスをうまくとることができたと感じたこともあったが、新しい発想や、展開などの、工夫が足りなかった。

Ⅱ保育の在り方、幼児への対応

・子どもの気持ちを最優先にすることを心掛けたが、もっと意見を引き出し、子どもから「やりたい」という流れにもっていけると良かった。
・保育者がおもっていたよりも、「遊ぶ力」「考える力」が豊かでありこれまでの関わりを反省した。
・子ども達への声掛けをどこまで声を掛けるべきか、自分の対応は正しかったのか悩むことが多かった。
・指示を出しすぎたり、もどかしさを感じ、つい保育者がリードしてしまう場面があった。
・個性的な子が多く、付きっきりになり視野が狭くなってしまっていた。
・危険な遊びをしていないか、人数確認等におわれ、こども達と充分に遊び込むことが少なかった。
・成長段階の差が大きく、保育者がとられ他の子ども達への援助、配慮、関わりが薄くなり、行動静止や禁止の言葉が多くなってしまった。
・午前は自由保育、設定保育を取り入れてきたが、午後の使い方をもっと工夫することができれば良かった。
・「やりたい」を重視しながら日々保育してきた１年だったが、怪我のないようにと思うあまりマイナスな発言や、手をだしすぎてしまい個々の成長段階に合った保育ができていなかった。

・怪我を心配するあまり、子どもと同じ目線で遊びを楽しむ余裕がもてなかった。
・他学年との連携や相談がうまくとれなかった。
・異年齢の関わりでは、誘われて参加することはあっても、自ら積極的に行くことができなかった。

Ⅲ保育者としての資質と能力

・担任と補助との連携が取れず、言葉や手をかけてしまうことが多く、その都度共通理解を図るよう話し合うようにしてきたが、難しかった。子ども達が戸惑うことなく園生活を送れるように、何度も話しあい理解しあって保育に当たるよう努めるべきだった。
・子ども達は自分の世界を作り時間が足りなくなるくらい遊び込むことができていたが、時間の制限がありどうしても切り上げなくてはいけないこともあり、切り上げ方を探る１年だった。
・保育のやり方に何度も悩んだが、クラス内の職員と相談しながら保育の仕方を考えて子ども達が成長しやすい状態を作る努力をしてきたが、もっと工夫が必要だった。
・クラス運営だけではなく、園全体の仕事にも責任を持ち取り組むよう心掛ける必要があった。

Ⅳ保護者への対応

・ドキュメンテーションをうまく活用し、子ども達の成長や何を大切に保育しているのか発信し家庭にも理解してもらえるよう努力をするべきだった。
・子ども達に目を向けるあまり、動画や写真に残す作業に余裕がなく、ドキュメンテーションの更新が少なかったので、保育者間で連携をするなどし、園での様子をしっかり伝えていく努力をするべきだった。
・保護者と話す機会があまりないので、園での様子を言葉で伝えられない分、動画等で知らせてきたが、不安に思う保護者もいたので、送迎の際などの時間をうまく活用するなど工夫が必要であった。

Ⅴ地域の自然や社会とのかかわり

・地域との関わり、小学校との連携等においては担当する学年により全く関わりがなく、取り組みが不十分であった。
・新型コロナウイルスからの流れもあり、小学校との交流が途絶えたままである。

Ⅵ研修と研究

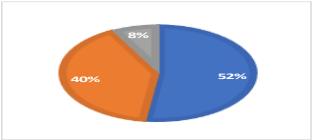
・こどもの主体性を育てる保育・教育の環境づくりについて、日々の保育を振り返り、反省からしっかり学ぶことが出来るよう努める必要がある。
・育ちの違いや、発達の遅れを理解し、個々に合った援助をしながら、どのようにクラス運営していくと良いか悩むことが多々あったので、専門的な研修を受け知識を身に付けたいと感じた。
・援助が必要な子に対して、もっと落ち着いて冷静になり個々にあった援助を心がける必要があったが理解不足・勉強不足であった。

4、保護者アンケートによる若葉幼稚園の評価結果

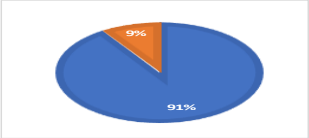
令和４年度　保護者アンケート結果

そう思う　だいだいそう思う　そう思わない

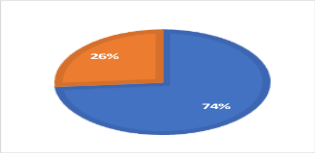
1.園は、教育・保育方針や教育目標を分かりやすく伝えていますか



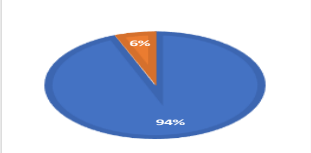
2.園は、教育・保育方針や目標を、こども達の育ちに生かしていますか



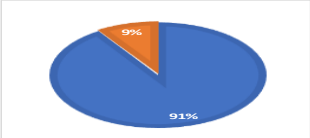
3.お子さんは、喜んで登園し、親しみやすいと感じていますか



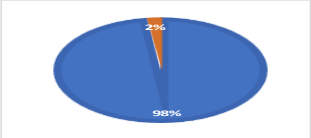
4.園は、子どもの発達段階や興味、関心に応じた保育が行われていますか



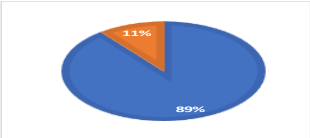
5.園は、一人ひとりの個性を大切にし、意欲や自信を持たせていますか



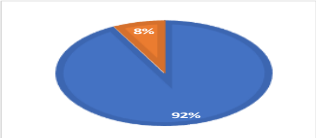
6.園は、異年齢が触れ合える環境構成をしていますか



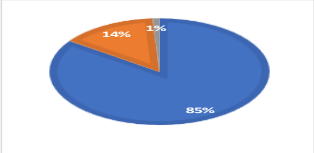
7.保育者は、一人ひとりの子どもをよく理解していますか



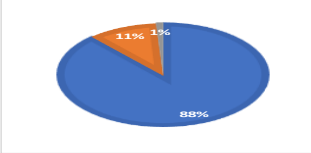
8.園は、保育の指導方法や内容に工夫されていますか



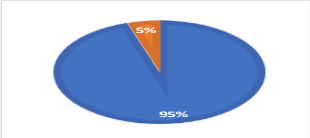
9.園は、園の活動をHPやドキュメンテーション、動画配信等で伝えることができていますか



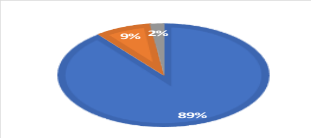
10.保育者は、子どもの保護者の悩みや問題に対して、適切に対応していますか



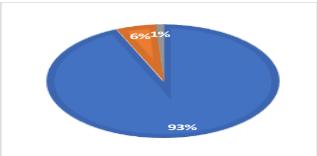
11.園は、行事日程等、保護者が参加しやすいような配慮をしていると感じていますか



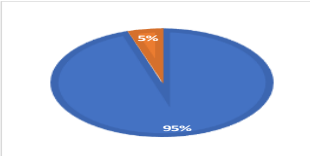
12.園は、子どもの様子や連絡事項、怪我や病気等への対応は適切に行われていますか



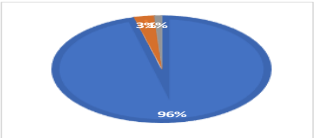
13.園は、子どもが安全で心地よく過ごすための配慮（安全点検・事故防止・避難訓練）をし危機管理や安全対策に努めていますか



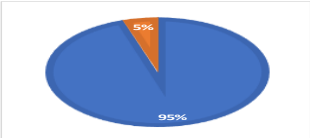
14.園は、施設設備（保育室・園庭・ひろば）教育環境の充実に努めていますか



15.園は、清掃や整理整頓が行き届いていますか



16.園は、個人情報の取り扱いに十分注意していますか



・喜んで登園し、のびのび個性をのばせる環境だった。
・動画配信やドキュメンテーションを使うことで、幼稚園の様子が見えて安心した。
・保護者アプリにて流行中の風邪などお知らせや、園での様子等、保護者側が見えづらい部分も知らせてもらえて良かった。
・感染対策とはいえ、玄関での受け入れではなく、部屋への送迎をしたい。
・以上児になると動画配信の数が少ない。
・玄関の施錠はしているものの、子どもの手が届いてしまう所にあるので心配。

5、今後取り組むべき課題

・のびのびと過ごす中で、自分達で考え危機管理をはかりしながら遊べる環境を整える。
・子ども達の気付きや考えの変化、友だちや環境とのかかわりに目を向け、ドキュメンテーションとして記録、発信を行い、保護者の方へ幼稚園の保育・教育について大切にしていることを理解していただくよう努める。
・保育者と補助教諭との連携をはかる。
・一日の振り返りをしっかり行い翌日以降の保育に生かし、子ども達の視点に合った思考や、内面理解に努める。
・子ども達の「やりたいこと」をどのように「発展」させたらよいのか、思いに気付き寄り添い工夫していく。
・自主的に勉強し、保育の意識を高める。

6、学校関係者の評価

今後学校関係者評価委員会を設立予定

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている